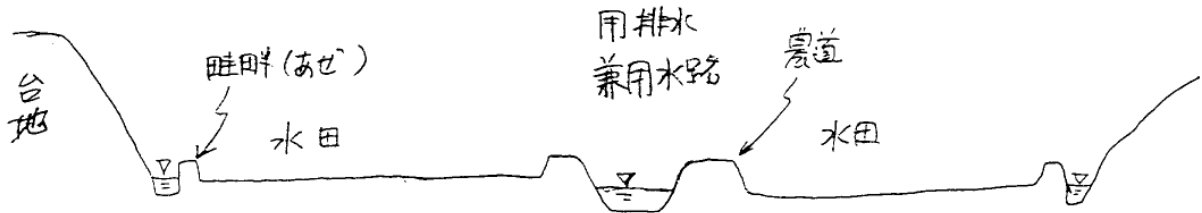


第3回 田んぼ整備資料 (1999.4.25)

谷津田周辺部に小水路がなぜ必要か?



谷津田は台地にはさまれた凹地である。台地からの地下水の湧水が水田周辺に出る。この水は通年を通じて13~16℃程度と一定であり、冬は暖かいが、夏は冷たく、水稻栽培には適さない。

このため、金助幅程度の小水路を作成し、水田の周辺をまわっている間に水温を上げ、暖かい水をかんがいする。こうした小水路には、

×ダカ、ドジョウ、イモリ、カエル、ゲンゴロウ、ヤゴ、タニシなどの小動物、ホタルイ、アギナシ、ミズオオバコ、スグタ、ミズエラなどの植物の住みかとなっている。

基盤整備により、水田が大区画化(30a以上)し、用水路と排水路が分離し、暗渠が入ればこうした土地も乾田化する。用水路はU字溝が入り、一時的な(稲作期間中だけの)通水路となる。排水路は深く、流中も急になる。こうした場所には上記の生物は住めなくなる。こうした生物がいなくなれば食物連鎖の上位種であるヘビや鳥やほ乳類もいなくなるこゝが容易に想像がつく。

(伊藤一幸)